

# MIYU



# COLLABORATION

## 宮城大学 高大連携事業

MIYAGI UNIVERSITY  
High School-University  
Collaborative Program

Project

- 
- 大学見学・出前講義
- アカデミック・インターンシップ
- 探究型学習の指導支援
- 高大連携事業調整会議
- 高校教員向け研修会

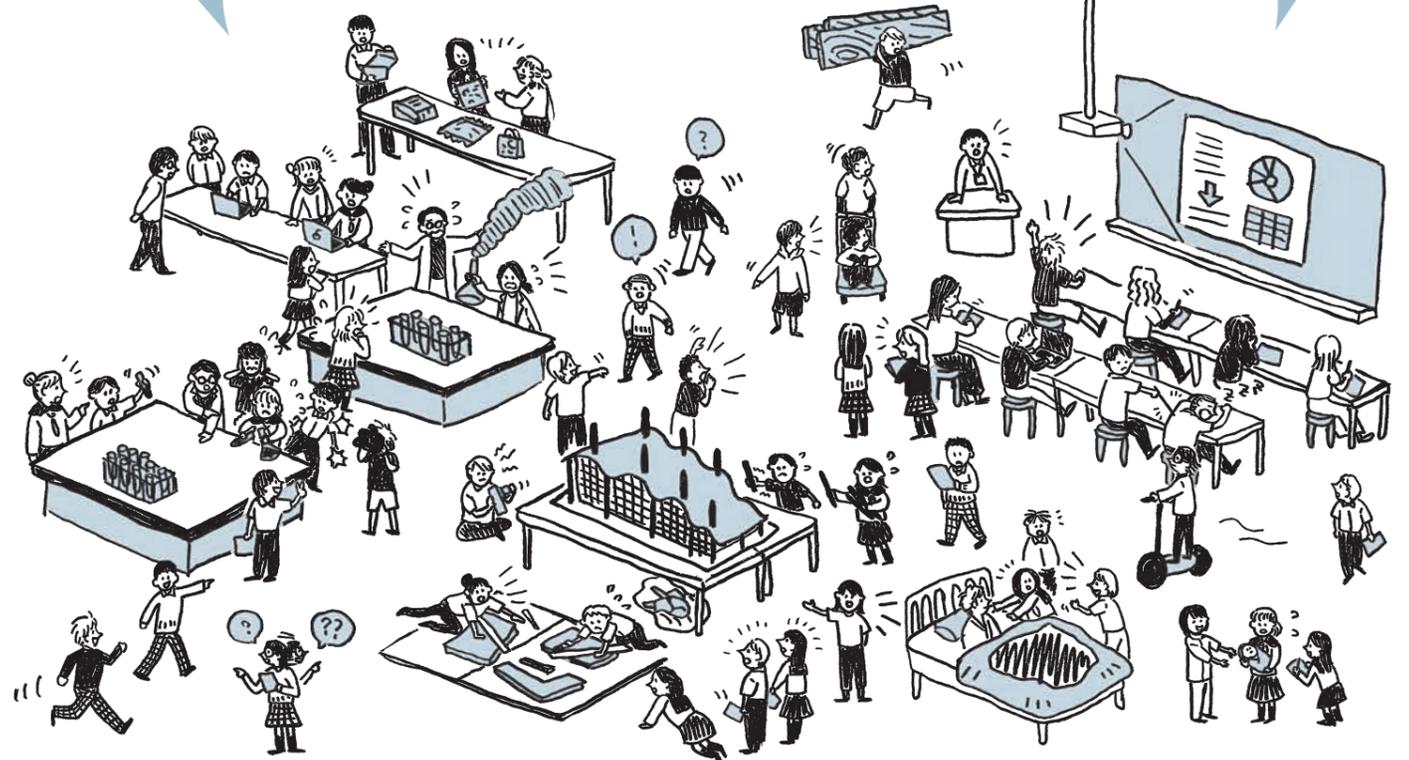
# これからの時代に必要とされる 探究型学習Q&A

高校と大学が  
地域の課題に  
共に取り組む



高校までの教育と  
大学教育を断絶させず  
学修者本位の教育を

主体的・対話的に  
深い学びを提供する

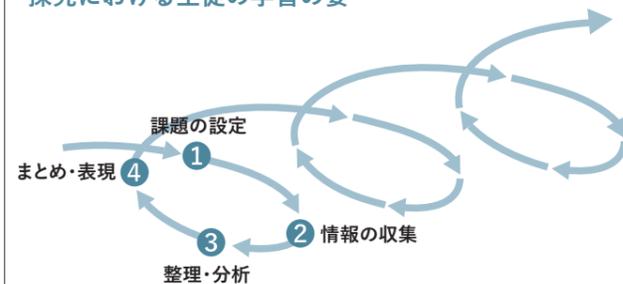


## Q1. 探究型学習(探究的な学習)とは?

**A1.** 「探究的な学習」とは、2009年3月に示された高等学校学習指導要領の中で、右図のように問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動のことです。一言で表せば「物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営み」であるといえます。2018年に示された新しい学習指導要領では、これまで「総合的な学習の時間」とされてきた教科が「総合的な〈探究〉の時間」に名称が変更され、その目的は「自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくこと」とされました。

今後、高等学校での学習は、より教科横断的に、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら課題を解決していくような学びが展開されていくことが想定されます。

探究における生徒の学習の姿



- 日常生活や社会に目を向け、生徒が自ら課題を設定する。
- 探究の過程を経由する。
- ①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現
- 自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される。

## Q2. 高大接続改革とは?

**A2.** グローバル化の進展やAI(人工知能)技術をはじめとする技術革新などに伴い、社会構造も急速に、かつ大きく変革しており、予見の困難な時代の中で新たな価値を創造していく力を育てることが必要です。

このため「学力の3要素(1. 知識・技能, 2. 思考力・判断力・表現力, 3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)」という一貫した理念で義務教育段階から高校教育へと生徒を育成し、大学教育で更なる伸長を図るため、それらをつなぐ大学入学選抜においても、多面的・総合的に評価するという三位一体的な改革が必要とされています。

## Q3. 宮城大学の高大連携とは?

**A3.** 高大接続改革における探究型学習の必要性が高まってきたことに鑑み、宮城大学では2019年4月より新たに「高大連携推進室」を設置しました。このことにより、様々な部署で実施されていた高大連携の取組を一本化し、より教育的な連携を重視しながら相互の教育の質を高めることを目的としたプログラムを多数実施しています。同時に、高等学校からの問い合わせもワンストップで対応できるようになったことにより、単発のプログラムで終わるのではなく、継続的なプログラムに発展できるような体制を整えています。

【参考文献】2009. 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」p10-11 / 2018. 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」p8-12

【参考文献】2018. 文部科学省「高大接続改革に係る質問と回答」, [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/koudai/detail/1404473.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/koudai/detail/1404473.htm)

# 宮城大学が目指す高大連携

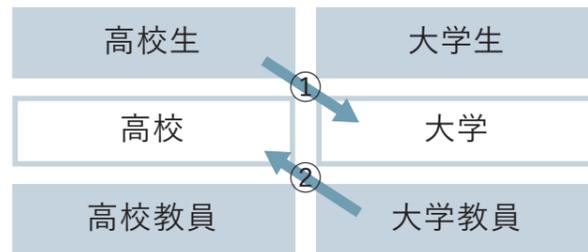
高校生や地域社会における「身近な宮城大学」づくりの実現

高等学校と大学に携わる教職員が相互の教育を理解しあいながら指導力を高め合うことで、

「地域貢献に寄与する人材」を育成します

## 【宮城大学における従前の高大連携】

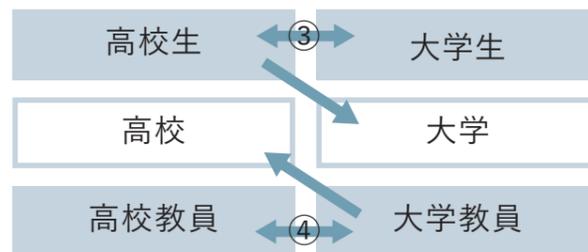
従前は①高校生の大学授業聴講、②大学教員の出前講義などで高等学校の進路選択、大学側の志願者獲得広報にとどまり、「教育上の連携」に至っていないという課題がありました。



## アカデミック・インターンシップの発展

## 【現在取り組んでいる高大連携】

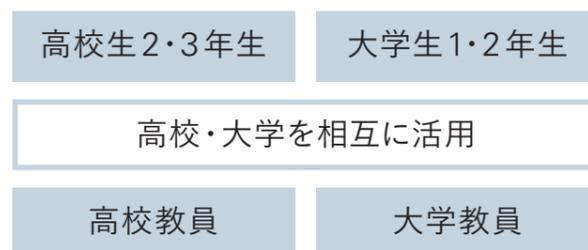
③高校生と大学生による協働活動をより活発化させたり、④高校教員と大学教員が相互に学び合い、協議の場を設けたりすることにより、「教育上の連携」を高めます。



## 主体的・対話的で深い学びをテーマに探究型学習の発展形を模索

## 【将来目指していく高大連携】

将来的には、主体的・対話的で深い学びをテーマとした探究型学習の発展形を模索することにより、継ぎ目のない高大接続を進め、生徒・学生相互の学力向上、教職員相互の指導力の向上を企図します。



## MIYAGI UNIVERSITY High School-University Collaborative Program

## 高校と大学が共に学び合える連携を

宮城大学は2019年度に高大連携推進室を立ち上げ、それまで事案ごと各部署にて対応してきた窓口を一本化して、より効果的で持続性のある高大連携事業の推進体制を構築してきました。

学習指導要領の改訂により、2022年度入学生から高等学校の「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」に変更されました。この「総合的な探究の時間」では、生徒たちが主体的に課題を設定し、情報収集や調査、あるいは実験・観察等を行い、その結果を整理、分析して発表する一連の活動力を育成します。そこでは教科・科目の枠を超えた横断的で総合的な学習が求められ、協働的な学びの姿勢も重要となってきます。宮城大学では、日頃から探究活動の中に身を置かれわれわれ大学人が、「探究的な学び」そして「課題解決」や「未知領域への挑戦」に高校生や高校の先生方が取り組むにあたって、最大限の協力をさせていただけるよう準備しています。以前から高校への出前講義や教員研修会などを実施したり、オープンキャンパスやアカデミック・インターンシップを開催してきましたが、どうすればそれらを教育的効果のある持続的な取組として定着させられるかを常に模索し、改善しながら進めているところでもあります。

高大連携推進室を立ち上げたことで、高校と大学の教職員が緊密かつ安定的に協力し、相互に学びながら指導力を高め合って、地域や世界に貢献できる人材を育成する体制が整いました。高校と大学、相互に利のある連携の実現には、高校生（受験生）の声と高校の先生方のご協力が何よりも大切であり、宮城大学はそれを必要としています。一方、宮城大学からは各種研修の機会や探究学習支援などにおいて、講師の派遣および大学が有する実験機材やノウハウ等の各種リソースを提供させていただきます。

グローバル化が進む中、国内では少子高齢化が深刻な問題となり、その一方で物の動きや機能がインターネット上で操られるIoTが一般化してAIが人にとって代わるといった現代の複雑な社会情勢を背景として、若者の学び方にも根本的な変革が必要となっています。こうした状況の下、高等教育改革の重要性が叫ばれており、宮城大学も高等教育機関としての使命を、高校生や高校の先生方と密に連携しながら成し遂げていきたいと考えています。

宮城大学高大連携推進室をどうぞよろしくお願いいたします。



宮城大学 高大連携推進室 室長

笠原 紳



## 宮城大学 高大連携推進室について

宮城大学は大学の目的で掲げるように「地域社会及び世界の大学、研究機関との自由かつ緊密な交流及び連携のもと、豊かな人間性と高度な専門性、確かな実践力を備えた人材を育成することをもって地域の産業及び社会の発展に寄与する」ことを目指しています。

地域に根ざした公立大学として、初等中等教育と高等教育の教育上の連携を図り、相互の教育の質を高めていくために、高大連携推進室を2019年4月に設置しました。

# 高校と大学の緊密な連携を通じて、 地域、社会の発展に寄与できる人材育成に貢献します。

宮城大学高大連携推進室では、次に掲げる5つのプロジェクトを中心に、高等学校との連携を進めています。  
「このようなイベントで大学教員の力を借りたい」「生徒の進路実現のために大学での学びをイメージさせたい」など、  
高等学校のニーズに合わせた相談を受け付けています。まずは、お気軽にお問い合わせください。

高等学校における進学支援の一環としての

## 大学見学・出前講義

大学での学びを体験し進学の動機づけにつなげる

### アカデミック・インターンシップ

高等学校における「総合的な学習(探究)の時間」の内容充実のための

### 探究型学習の指導支援

高等学校と大学相互の対話に基づく支援体制づくり

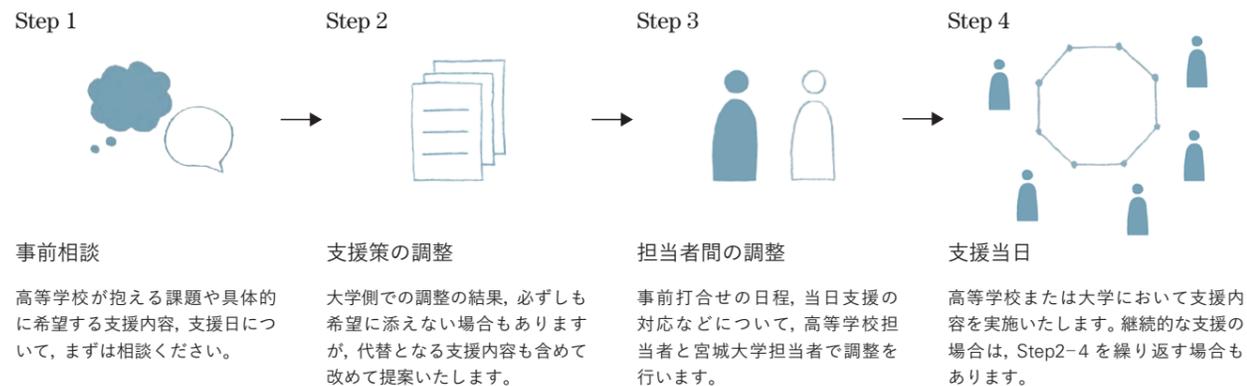
### 高大連携事業調整会議

探究型学習を充実させるための

### 高校教員向け研修会

Project

## 支援に向けての手順フロー



高等学校における進学支援の一環としての

# 大学見学・出前講義

高校生及びその保護者を対象に、実際の授業で使用する施設を見たり、設備の説明を聞いたりすることで、大学進学後の学修のイメージを持っていただくための大学見学を実施しています。また、学習意欲や進路に対する目的意識を高めるための高等学校への出前講義も行っています。プログラムや時間については高等学校と個別に相談して決定します。



大学見学では、宮城大学に置かれる3つの学群(看護学群, 事業構想学群, 食産業学群)についての説明に加え、キャンパスの見学を実施しています。キャンパスの見学は大学生が説明することもあります。そのほか、要望に応じて希望する学群・学類の模擬講義も実施できます。例えば福島県立福島東高等学校には、大和キャンパスで事業構想学群教員の友淵貴之、太白キャンパスで食産業学群教員の白川愛子が模擬講義を行い、その後、大学の説明とキャンパスの見学を実施しました。

出前講義では、高等学校の希望する分野の教員を派遣します。例えば宮城県仙台向山高等学校からは、看護分野とビジネス分野における学問や研究を理解するために、大学で実際に行われている授業を体験したいとの希望を受け、看護学群教員の名古屋祐子を派遣し、成人看護学の講義を、事業構想学群教員の高橋修を派遣し、経営戦略論の講義を行いました。

【大学見学・出前講義】の申込については、宮城大学ウェブサイト <http://www.myu.ac.jp/high-univ/lecture> から  
要項・申込書を確認のうえ、[dk@myu.ac.jp](mailto:dk@myu.ac.jp) までお申込みください。



【探究型学習の指導支援】に関する問い合わせは、宮城大学ウェブサイト <https://www.myu.ac.jp/high-univ/shs-tank/> から  
要項・申込書を確認のうえ、[dk@myu.ac.jp](mailto:dk@myu.ac.jp) までお申込みください。



大学での学びを体験し進学の動機づけにつなげる

# アカデミック・インターンシップ

高校生が「宮城大学での学び」に触れながら、「深い学び」について考え、自己の進路に対する目的意識を高める機会を提供しています。大学での授業を体験することを通じ、宮城大学で学ぶことの魅力や学問の深さを知り、探究心を高めます。また、座学だけでなく、ゼミや演習、先輩学生との関わりといった体験的な学びを組み入れたプログラムも提供しています。



## 充実した夏の大学体験プログラム「宮城大学アカデミック・インターンシップ」

2022年8月8日、高校2年生を対象としたアカデミック・インターンシップを開催しました。宮城県をはじめ東北地域から37の高等学校、延べ251名の高校生らが参加しました。2017年度から連続した開催で、受講生は大和キャンパスと太白キャンパスに分かれ、初めに基盤教育科目を受講し、その後、自らが希望する分野の学類プログラムを受講しました。

最後に修了式を行い、受講生一人ひとりに修了書を渡しました。参加した高校生からは、「大学の雰囲気を感じ取れ、自分の学びたいものを学ぶことができた」「進路を考えるいいきっかけになった」という感想が寄せられました。宮城大学高大連携推進室では、今後も大学での学びを体験できる機会、進路について意識するための機会を積極的に設けていきます。

## MIYAGI UNIVERSITY Academic Internship 2022 List of courses

2022年度開講科目一覧	
9:00-	受付
9:30-10:00	開校式
10:00-11:00	基盤教育科目

11:10-12:00	各学類講座①
12:50-14:20	各学類講座②
14:30-16:00	各学類講座③
16:20-16:30	閉会式

### 《基盤教育科目を各キャンパスで必修受講》



大和キャンパス 基盤教育科目  
国際紛争はなぜ解決しない？

基盤教育群 | 仲宗根卓

ロシアのウクライナへの軍事侵攻などを例に、国際社会の構造の特徴を踏まえて、国際紛争の解決の方法について考えました。受講生はタイムリーなテーマについて講義を通して理解を深めるとともに、国際紛争をどうすれば解決できるかを主体的に考えていました。 ※看護学群、事業構想学群全受講生共通必修科目



太白キャンパス 基盤教育科目  
謎解きの英単語選び

基盤教育群 | 曾根洋明

英語の冠詞について、微妙な表現の違いが大きな意味の違いを生み出す英語の魅力について学びました。受講生からは「英語が苦手だったが成り立ちから学ぶことで分かりやすく、楽しかった。」といった感想がありました。 ※食産業学群全受講生共通必修科目



事業構想学群 全受講生共通必修科目  
"事業構想"と、デザイン・地域・事業プランニングの関係

事業プランニング学類 | 高山純人  
地域創生物学類 | 青木孝弘  
価値創造デザイン学類 | 薄井洋子

それぞれの学類に所属する3人の教員がディスカッションを行い、各学類の特徴や学べることについて意見交換するほか、受講生からの質問も募集し、双方向での講義を体験しました。

### 《希望する学類プログラムから1コースを選択受講》



コミュニケーションを科学する

看護学類 | 平泉拓

看護師等にとって、ケア(治療)に大きな影響を与える実践の「基盤」として、「コミュニケーションとは何か」「コミュニケーションとケアはどう関係するか」という問いを、ペアワークで学びました。受講生はコミュニケーションについて新たな視点から深く学び「日常生活でも本講義の内容を生かしたい」といった感想もありました。



自分の「価値」って何だろう？～商品の差別化戦略を通して～

事業プランニング学類 | 高山純人

自分を1つの商品に例えた場合、どのような商品戦略やプロモーション戦略を取るべきなのか。商品の差別化戦略を通して、価値の創り方を一緒に考えました。受講生はマーケティングや価値の高め方について理解すると同時に、自分の価値や将来について新たな視点で考えていました。



新しい経済をつくるローカルベンチャー

地域創生物学類 | 青木孝弘

身の回りの地域創生の取組をお互いに共有し、国の経済状況を表す国民経済計算の考え方を踏まえた上で、それぞれの取組がどのように効果がある施策であるかの議論を行いました。コメント機能で意見を出し合いながら、受講生は東北の現状に対して自分は何をすべきかを考えていました。



メタバースでコミュニケーションをとってみよう！

価値創造デザイン学類 | 薄井洋子

実際にVRやメタバースを体験して、一緒にメタバースの未来について話し合いました。受講生は新しい体験に刺激を受けていました。また、メタバースを通して初めて会った人とコミュニケーションを取る楽しさも感じていました。



これからの水産業

生物生産学類 | 片山亜優

水産実験棟で開発中の新しい養殖技術を実際に体験し、ウニやタコの研究に関して生物と触れ合いながら、これからの水産業の課題や問題点を考えました。受講生は他校の人も協力して実験を行い、楽しみながら水産業について学んでいました。



食べものはどこから来てどこへ行くのか

フードマネジメント学類 | 阿部希望

自分の「食べものがたり」を見つけたら、「どこどこ(食べものはどこから来てどこへ行くのかの略)マップ」を作りながら、「食べもの」や「食べること」の歴史や、私たちと食との関係について考えました。受講生はグループワークを通じて食べ物の流れや歴史に対する理解を深め、より食に興味を持つようになりました。

高等学校における「総合的な学習(探究)の時間」の内容充実のための

# 探究型学習の指導支援

学習指導要領の改訂に伴う「総合的な探究の時間」への対応支援として、高等学校における生徒向けの「探究学習の基本講演」を行っています。また、研究開始・中間・最終発表会などでの指導助言といった、大学での研究指導のノウハウを活用した連携にも取り組んでいます。本プロジェクトでは、宮城大学の学生がコーディネーターとなって高校生を支援することも可能です。



宮城県気仙沼高等学校では1年生～3年生を通しての探究型学習として「地域社会研究」(1年生)、「課題研究I」(2年生)、「課題研究II」(3年生)を行っています。生徒が設定したテーマに対して、適した教員を本学が派遣し、テーマ設定や調査方法への助言を年間を通して行っています。また、中間発表会や全体発表会、最終発表会に本学教員も参加し、生徒の研究成果に対する指導助言や講評も行っています。



【高校からの声】宮城県気仙沼高等学校 研究企画部長 鈴木悠生先生「生徒たちは、テーマ設定、中間発表、研究相談、全体発表といったあらゆる場面で、宮城大学の先生方とディスカッションを繰り返し、探究を深める支援を受けて活動しています。なかなか出会う機会が少ない専門家の視点からの助言を受けたり、生活から湧き出る興味関心に寄り添った声掛けを受けることが、実感を伴った将来設計の一助になっていると感じています。」



宮城県富谷高等学校2年生対象の「T-time」では、各自の進路に関わる学問系統の課題について研究しています。研究の過程で、大学の教員から助言を受けながら、調査方法、情報の集め方、どのようにまとめるかなど、研究の基本姿勢を学んでいます。2022年度は食産業学群教員の笠原紳や事業構想学群教員の高橋信人、中沢峻が学生の支援を行いました。



【高校からの声】宮城県富谷高等学校 ユネスコ企画部長 塗田宣幸先生「課題研究に対する、生徒の『熱量』が上昇しています。自分から疑問に思ったことをチーム全員で共有し、協力しながら研究していく『楽しさ』が、自分でも、また自分たちだからこそできるのだという『可能性』が、そして正解のない答えを探究する『好奇心』が、一見『難しい』と思われる研究テーマを乗り越えるのだというアドバイスをいただきました。約10ヶ月に及ぶ研究のなかで、この高大連携が、生徒と教員にとって研究姿勢の深化に大きな役割を果たしています。」

高等学校と大学相互の対話に基づく支援体制づくり

# 高大連携事業調整会議

近隣高等学校を中心に高大連携事業に関する意見交換を年2回行っています。大学側の事業計画の紹介と高等学校からの大学への要望などを主な議題とするだけでなく、シンポジウムなどの開催を通じて他大学などの事例研究から新たな可能性を模索するなどの取組も行っています。

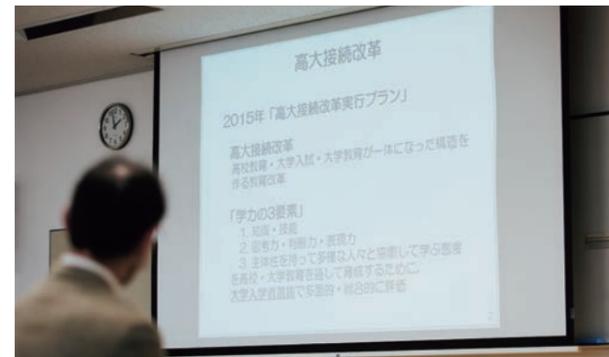


県内高等学校をはじめ、約20校の進路指導担当者・探究企画担当者とともに、双方への要望、意見交換を行っています。2021年度からはオンラインでの会議を行っています。

探究型学習を充実させるための

# 高校教員向け研修会

高等学校の探究型学習指導のなかで、「探究テーマの設定」「仮説の立て方」「調査の手法」「分析の手法」「プレゼンテーションの方法」といった各過程で起こりうる指導上の課題を解決するために、大学教員のゼミ活動や卒業研究指導などの知見を活かした研修・勉強会を行っています。教員研修会をはじめ、探究型学習の担当者を対象にした大学教員との意見交換会など、対象・手法については高等学校と個別に相談して決定します。2022年度は宮城県教員向けの進路指導の講話を行いました。



個別高等学校における研修会の支援のみならず、大学と高等学校が協働して高大連携を考えるシンポジウムの開催なども行っています。



宮城大学  
MIYAGI UNIVERSITY



宮城大学 高大連携事業

発行：2023年2月 発行者：宮城大学 高大連携推進室

Tel: 022-377-8594 Fax: 022-377-8282 email: dk@myu.ac.jp